

接客支援ロボ3体導入

鹿の湯ホテル（本社三重県菟野町湯の山温泉、伊藤裕司社長、電話059・392・3141）は、三重県菟野町で運営する宿泊施設「鹿の湯ホテル」の館内に、接客を支援するロボット3体を導入した。英語、中国語、日本語に対応。外国人観光客の接客を助ける。今秋をめどに、さらに追加で1体を導入する計画だ。ホテルが立地する湯の山温泉街は2018年、開湯1300年を迎える。外国人観光客の受け入れ体制を強化し、客数の増加につなげる考え。（四日市・山田駿太）



伊藤裕司社長

宴会場や売店で外国人にも対応

鹿の湯ホテル

導入したのは、身長約30センチのロボット「コロン」。フロント、宴会場、売店の3カ所に設置した。フロントでは、チェックイン時の書類の記入方法や客室へのルートなどを宿泊客に説明する。宴会場では料理の特長などを解説するほか、料理が運ばれるまでの間にダンスを披露し、客

を楽しませる機能も備えている。売店では必要時に従業員を呼ぶ機能を搭載している。今秋にはホテルの玄関にも設置する計画だ。センサーで宿泊客の来店を確認し、フロントへの行き方を説明する機能を加える予定。三重県菟野町では18年、



導入したロボット「コロン」

湯の山温泉の開湯1300周年や鈴鹿国定公園の指定50周年などの節目を迎える。新名神高速道路の菟野インターチェンジも開業し、交通の利便性も向上する。菟野町を訪れる観光客の増加が期待されている。鹿の湯ホテルでは現在、外国人宿泊者の比率は5%ほどで、18年11月期に10%に引き上げる考えだ。伊藤社長は「お客さまに愛されるロボットになってほしい」と話している。同ホテルは1962年に営業を開始。17年11月期の年間宿泊者数は、約2万5千人。

